

農地を守り・育てて、都市部に緑の潤いを

王寺町農業委員会

1. 王寺町の農業の概要

王寺町は、北葛城郡の西北部に位置し、金剛・葛城山脈と信貴・生駒山脈の合致点に奈良盆地の水を集める大和川が流れ、この峰を境として大阪府と隣接する水と緑に恵まれた町である一方で、大阪と奈良を結ぶ交通の要衝として西和地域の中心的役割を担ってきた結果、町域全てが都市計画区域に設定され、また、農業振興地域がないことから、町の都市化に拍車がかかり、農地は著しく減少してきました。

このように都市化が進んだことにより、農業は小規模な兼業農家が大多数を占め、そのほとんどが零細で自給的な農業を営んでおり、その労働力の多くは高齢者に頼っているのが現状です。

2. 農業委員会の取り組み

① 具体的な取り組み内容

都市化の進展により、現在も農地は減少の一途を辿っていますが、一方、農地は保水機能など様々な公益機能を持ち、環境の保全や防災上でも重要な役割を果たす大切な財産であることから、かけがえのない農地をしっかりと将来に継承していくため、農業者の代表機関として行政や関係団体と連携しながら、農業委員会としての責務を果



たし、農業振興を図っていきます。次に、農地を保有資産として見る傾向が顕著化することで年々増加傾向にある遊休農地を解消する試みとして、委員全員が「遊休農地解消モデル地」にてさつま芋とカボチャの栽培を行い、また、子供達にさつま芋の収穫体験から、「農作物の収穫の楽しさ」、「農作業の大変さ」、「農業の大切さ」などを少しでも感じ、学んでもらえればと思います。町内の幼稚園児に栽培したさつま



芋の収穫作業を楽しく体験してもらいました。この体験を通じて農業に興味を持ってもらい、将来の後継者が現れてくれればと願っています。

②取り組みに当たっての課題

王寺町の農業は、都市化による農地の減少と共に農業従事者の高齢化及び担い手・後継者不足並びに農地を保有資産として見る傾向が顕著化していることから、遊休農地は年々増加傾向にあります。

また、混住化が進むことで農地の集積等が困難となり、農作業の効率化によるコスト削減が出来ないことから、生産コストの高い農業を強いられている現状にあります。

このような状況の中、大都市近郊で消費地に近い条件を活かし、多品目小産地としての農業を育成・展開する必要があります。



③課題への対応方策

- 農地法等の関係法令の適正な運用による円滑な事務手続を行う
- 農地パトロールにより農地の利用状況を的確に把握し、農地の無断転用等を未然に防止する
- 遊休農地解消に向けての広報活動等を実施する
- 各種関係機関・団体と連携し、農業振興を図る
- 奈良県の特産品で伝統ある大和野菜等の普及に努め、王寺町の特産品の開発・育成と農業発展に寄与する